

クロッピングシステム部門

畑作センター

平成6年度の担当圃場面積は151.2a、作付延べ面積は213.8aで作付率は141%であった。前年と比較すると、圃場面積・作付延べ面積ともにやや増加し、作付率も増加した。本年度から汎用温室の供用が開始され、当部門も1棟(440㎡)を分担した。スイートコーン・夏ネギ・ホウレンソウ・シュンギクを作付けるとともに各種の育苗に使用した。

気象条件としては全国的に猛暑の夏となり、平均気温は7月が29.6℃で準平年値よりも3.7℃高く、8月が29.6℃で準平年値よりも1.2℃高いものであった(岡山大学農学部気象月報)。降水量は平年よりも少ない推移であり、特に6月は準平年値のほぼ半量であった。前年の冷夏とは逆となったが、灌水設備の完備した当農場では栽培上は有利な条件であった。

第1-3表にクロッピングシステム部門作物別耕種概要を示した。

カンショは前年からはじめてビニールマルチ栽培が技術的に確立したものとなり、生産も史上最高となった。前述した夏の猛暑はカンショでは特に有利に作用したもののと思われ、収量が高かった。単価も高く設定できた。

エダマメも史上最高の前年をさらに上回った。収量・単価は前年より低かったが、作付面積を増やしたため増収となった。販売所で好評の品種「北海黒豆」を増反して販売可能日数を延長できたことが好結果の主因である。今後作型に一層の工夫を加えればさらに増産も可能とおもわれた。

カボチャの生産はほぼ例年なみで、品種選択を適切におこなって販売を容易にすることが今後の課題である。ビニールマルチをはじめて採用し、播種した畦に敷設した。ビニール廃材と敷きわらも併用して効果を得た。

スイートコーンは前年に比べ生産が半減した。これは収量が5割程度減少したためで、原因は中

耕前大雨による倒伏であった。特に主力品種の「アストロバンタム」で被害が大きく、虫害によっても品質が低下し、単価を低く設定せざるをえず、主力作物のひとつとしては反省点が多かった。適期中耕培土と虫害対策が課題である。

春カンランはまずまずの生産であったが、外葉のよごれによる品質低下がみられ、低単価となった。春作は裂果のおそれがあり、これ以上の増産は困難とおもわれた。

秋カンランは作付面積を削減したが、収量がたかく単価も高水準に維持でき、結果的に前年程度の生産となった。ビニールマルチを採用しているが、前年は追肥が実施できなかったため生育後半の肥料ぎれがあったが、本年度は基肥を増肥し好結果を得た。施肥総量はマルチ使用以前よりも少なく設定することができた。

夏ネギは前年を以下の生産となったが、これは立毛がわるく、冬ネギの苗に充当せざるをえなかったためである。冬ネギは販売所での売れゆきがいまひとつで、消費動向に変化を生じている。作型に工夫を加え、周年出荷に接近させたい。

夏ホウレンソウは数年前に導入したが、着実に生産できるようになった。早期の作型や適品種の採用など工夫の余地はある。秋冬ホウレンソウは前年より増産できたが、単価の上昇はあまり期待できない。今後これ以上の増産は期待できないが、主要作目であることはまちがいない。

サトイモは前年度まで装置化生産部門そ菜・花き部での作目であったが、本年度から当部門に移籍した。除草などの管理や収穫作業の機会化が効を奏したこと、灌水も十分実施できたため生産量を増加することができた。種イモの自給が可能であること、単価が高いなどメリットが大きい。ただし生育期間が長いことは短所である。

ミズナは前年よりは増産でき、面積あたりの収入も高いが、これ以上の増産には無理がある。

第1表 クロッピングシステム部門1994年度作物別耕種概要(A)ー1

番号	作 目	圃 場	面積	品 種	生産量	収量	栽植	畦幅	株間 密度
			a		kg	kg/10a	株/a	cm	cm
1	カンショ(K14)	西5	15.0	高系14	6641	4150	444	120	21
2	カンショ(VS6)	西5	1.0	6品種			397	120	21
3	大豆(TM1)	西6	0.65	タママレ	42.5	653	594	80	23
4	大豆(TG2)	西5	2.5	丹波黒	38.5	122	543	80	23
5	大豆(A01)	西6	0.65	青豆			543	80	23
6	エタマメ(SP1)	H1	1.5	サッポロミドリ	2012	958	666	60	25
7	エタマメ(HS1)	西2	2.5	宝石			595	80	21
8	エタマメ(HS2)	西2	2.5	宝石			543	80	21
9	エタマメ(HS3)	西2	2.5	宝石			595	80	21
10	エタマメ(HK1)	西2	3.0	北海黒豆			595	80	21
11	エタマメ(HK2)	西2	2.5	北海黒豆			595	80	21
12	エタマメ(HK3)	西2	2.5	北海黒豆			595	80	21
13	エタマメ(TS1)	西4	3.0	タススナリ			595	80	21
14	エタマメ(TG1)	温A	2.5	丹波黒			543	80	23
15	カボチャ(HY)	西4	5.0	はやと	476.5	953	13	400	150
16	カボチャ(RK)	西5	10.0	利休	1056.9	1057	10	400	200
17	スイートコーン(KT1)	温A	2.0	カクテル86	1353	1691	298	80	42
18	スイートコーン(KT2)	西1	3.0	カクテル86			298	80	42
19	スイートコーン(KT3)	西1	3.0	カクテル86			298	80	42
20	スイートコーン(AS1)	西1	3.0	アストロハンタム	1037	648	265	90	42
21	スイートコーン(AS2)	西1	4.0	アストロハンタム			265	90	42
22	スイートコーン(AS3)	西1	2.0	アストロハンタム			265	90	42
23	スイートコーン(AS4)	西1	4.0	アストロハンタム			265	90	42
24	スイートコーン(AS5)	西1	3.0	アストロハンタム			265	90	42
25	春カンラン(OK1)	西4	2.0	おきな	1888	472	333	60	50
26	春カンラン(OK2)	西4	2.0	おきな			333	60	50
27	カンラン(SH)	西2	2.0	早秋	3643	3643	333	60	50
28	カンラン(NP)	西2	1.5	南宝			333	60	50
29	カンラン(US)	西3	6.5	うしお			333	60	50
30	カリフラワー	西1	1.0	スノークラウン	137.5	1375	333	60	50
31	ブロッコリー(BR1)	西3	2.0	ハイツ	516.5	1291	333	60	50
32	ブロッコリー(BR2)	西1	2.0	ハイツ			333	60	50
33	夏ネギ(1)	南5	5.0	九条ネギ	322.7	430	1000	100	10
34	夏ネギ(2)	H2	1.5	九条ネギ			*		条播
35	夏ネギ(3)	温A	1.0	九条ネギ			*	120	ハバラ播
36	ネギ(4)	西3	10.0	九条ネギ	929	929	500	80	25
37	夏ホウレンソウ(1)	西4	1.0	おかめ	525.5	1051	1111	60	15
38	夏ホウレンソウ(2)	西4	1.0	おかめ			1111	60	15
39	夏ホウレンソウ(3)	西4	0.5	おかめ			1111	60	15
40	夏ホウレンソウ(4)	西4	0.5	おかめ			1111	60	15
41	夏ホウレンソウ(5)	西4	1.0	おかめ			1111	60	15
42	夏ホウレンソウ(6)	西4	1.0	おかめ			1111	60	15
43	ホウレンソウ(PL1)	南3	2.0	ハート	1597.5	1452	1111	60	15
44	ホウレンソウ(PL2)	南3	2.0	ハート			1111	60	15
45	ホウレンソウ(LD1)	南3	2.0	リート			1111	60	15
46	ホウレンソウ(LD2)	西4	2.0	リート			1666	60	10
47	ホウレンソウ(LD3)	温A	1.0	リート			1666	60	10
48	ホウレンソウ(PL3)	温A	1.0	ハート			1666	60	10
49	ホウレンソウ(LD4)	温A	1.0	リート			1666	60	10

第1表 クロップングシステム部門1994年度作物別耕種概要(A)-2

番号	作 目	圃 場	面積	品 種	生産量	収 量	栽植	畦 幅	株間 密度
			a		kg	kg/10a	株/a	cm	cm
50	サトイ	西3	10.0		1578	1578	139	120	60
51	シュンキク(1)	温A	0.5	おたふく	141.75	945	694	60	24
52	シュンキク(2)	温A	1.0	おたふく			694	60	24
53	ミズナ(1)	西2	0.5	千筋	495.5	4955	1111	60	15
54	ミズナ(2)	西2	0.5	千筋			1111	60	15
55	コカブ(1)	西3	0.5	ひかり	360	3600	1111	60	15
56	コカブ(2)	西3	0.5	ひかり			1111	60	15
57	カブ(HK1)	西1	2.0	ひかり	1904	3173	694	60	24
58	カブ(HK2)	西1	2.0	ひかり			694	60	24
59	カブ(HK3)	西1	2.0	ひかり			694	60	24
60	夏タニコ(SG1)	西3	1.0	四月早生	1275	2833	694	60	24
61	夏タニコ(OH1)	西3	0.5	おはる			694	60	24
62	夏タニコ(OH2)	西3	1.5	おはる			694	60	24
63	夏タニコ(OH3)	西3	1.5	おはる			694	60	24
64	タニコ(TS1)	西4	2.0	耐病総太り	3308	4726	694	60	24
65	タニコ(TS2)	西4	2.0	耐病総太り			694	60	24
66	タニコ(TS3)	西4	2.0	耐病総太り			694	60	24
67	タニコ(TS4)	西4	1.0	耐病総太り			694	60	24
68	夏ニンジン(AS1)	西3	0.5	アスヘニ五寸	793	1586	2222	60	15(2条)
69	夏ニンジン(AS2)	西3	0.5	アスヘニ五寸			2222	60	15(2条)
70	夏ニンジン(AS3)	西3	1.0	アスヘニ五寸			2222	60	15(2条)
71	夏ニンジン(AS4)	西3	1.5	アスヘニ五寸			2222	60	15(2条)
72	夏ニンジン(AS5)	西3	1.5	アスヘニ五寸			2222	60	15(2条)
73	ニンジン(YM1)	西4	0.5	陽明五寸	974	2435	2222	30	15
74	ニンジン(SK)	西4	1.0	鮮紅五寸			2222	30	15
75	ニンジン(HB)	西4	0.5	本紅金時			2222	30	15
76	ニンジン(YM2)	西4	2.0	陽明五寸			2222	30	15
77	ハレisho(DS)	南3	7.0	男爵	1443	2067	400	100	25
78	ハレisho(MQ)	南3	6.0	メイクーン	1248	2080	400	100	25
79	ハレisho(SY)	南3	2.0	セトカ	487	2435	400	100	25
80	ハレisho(DZ)	南3	4.0	デシマ	785	1962	400	100	25
81	秋ハレisho	南5	15.0	デシマ	359	238	400	100	25
82	ハホタン(SK)	西1	1.5	F1白かもめ	760	1267	333	60	50
83	ハホタン(BK)	西1	1.5	F1紅かもめ			333	60	50
84	ハホタン(SM)	西1	1.0	F1白まるは			333	60	50
85	ハホタン(BM1)	西1	1.0	F1紅まるは			333	60	50
86	ハホタン(BM2)	西1	1.0	F1紅まるは			333	60	50
87	ニンジンマヒキナ	-	-	-	146	-	-	-	-
88	タニコマヒキナ	-	-	-	117	-	-	-	-
89	カブマヒキナ	-	-	-	152	-	-	-	-
90	カンショ苗	-	-	高系14	-	-	-	-	-

第2表 クロッピングシステム部門1994年度作物別耕種概要(B)－1

番号	作 目	施肥量 kg/10a			基肥量 kg/10a		
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
1	カンショ(K14)	0	0	0	0	0	0
2	カンショ(VS6)	0	0	0	0	0	0
3	大豆(TM1)	0	10.0	12.0	0	10.0	12.0
4	大豆(TG2)	0	10.0	12.0	0	10.0	12.0
5	大豆(A01)	0	10.0	12.0	0	10.0	12.0
6	エタマメ(SP1)	3.2	10.0	12.0	3.2	10.0	12.0
7	エタマメ(HS1)	0	10.0	12.0	0	10.0	12.0
8	エタマメ(HS2)	0	10.0	12.0	0	10.0	12.0
9	エタマメ(HS3)	0	10.0	12.0	0	10.0	12.0
10	エタマメ(HK1)	0	10.0	12.0	0	10.0	12.0
11	エタマメ(HK2)	0	10.0	12.0	0	10.0	12.0
12	エタマメ(HK3)	0	10.0	12.0	0	10.0	12.0
13	エタマメ(TS1)	0	10.0	12.0	0	10.0	12.0
14	エタマメ(TG1)	0	10.0	12.0	0	10.0	12.0
15	カボチャ(HY)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
16	カボチャ(RK)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
17	スイートコーン(KT1)	16.0	16.0	16.0	12.8	12.8	12.8
18	スイートコーン(KT2)	16.0	16.0	16.0	12.8	12.8	12.8
19	スイートコーン(KT3)	16.0	16.0	16.0	12.8	12.8	12.8
20	スイートコーン(AS1)	16.0	16.0	16.0	12.8	12.8	12.8
21	スイートコーン(AS2)	16.0	16.0	16.0	12.8	12.8	12.8
22	スイートコーン(AS3)	16.0	16.0	16.0	12.8	12.8	12.8
23	スイートコーン(AS4)	17.6	17.6	17.6	12.8	12.8	12.8
24	スイートコーン(AS5)	17.6	17.6	17.6	12.8	12.8	12.8
25	春カンラン(OK1)	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
26	春カンラン(OK2)	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
27	カンラン(SH)	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
28	カンラン(NP)	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
29	カンラン(US)	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
30	カリフラワー	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
31	ブロッコリー(BR1)	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
32	ブロッコリー(BR2)	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0	16.0
33	夏ネギ(1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
34	夏ネギ(2)	16.0	16.0	16.0	12.8	12.8	12.8
35	夏ネギ(3)	14.8	12.8	14.8	12.8	12.8	12.8
36	ネギ(4)	16.0	16.0	16.0	12.8	12.8	12.8
37	夏ホウレンソウ(1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
38	夏ホウレンソウ(2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
39	夏ホウレンソウ(3)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
40	夏ホウレンソウ(4)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
41	夏ホウレンソウ(5)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
42	夏ホウレンソウ(6)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
43	ホウレンソウ(PL1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
44	ホウレンソウ(PL2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
45	ホウレンソウ(LD1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
46	ホウレンソウ(LD2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
47	ホウレンソウ(LD3)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
48	ホウレンソウ(PL3)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
49	ホウレンソウ(LD4)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8

第2表 クロッピングシステム部門1994年度作物別耕種概要(B)-2

番号	作 目	施肥量 kg/10a			基肥量 kg/10a		
		N	P ₂ O ₅	K ₂ O	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
50	サトイモ	19.2	19.2	19.2	12.8	12.8	12.8
51	シュンキク(1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
52	シュンキク(2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
53	ミスナ(1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
54	ミスナ(2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
55	コガブ(1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
56	コガブ(2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
57	カブ(HK1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
58	カブ(HK2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
59	カブ(HK3)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
60	夏ダイコン(SG1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
61	夏ダイコン(OH1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
62	夏ダイコン(OH2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
63	夏ダイコン(OH3)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
64	ダイコン(TS1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
65	ダイコン(TS2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
66	ダイコン(TS3)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
67	ダイコン(TS4)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
68	夏ニンジン(AS1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
69	夏ニンジン(AS2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
70	夏ニンジン(AS3)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
71	夏ニンジン(AS4)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
72	夏ニンジン(AS5)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
73	ニンジン(YM1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
74	ニンジン(SK)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
75	ニンジン(HB)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
76	ニンジン(YM2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
77	ハレイショ(DS)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
78	ハレイショ(MQ)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
79	ハレイショ(SY)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
80	ハレイショ(DZ)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
81	秋ハレイショ	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
82	ハホタチ(SK)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
83	ハホタチ(BK)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
84	ハホタチ(SM)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
85	ハホタチ(BM1)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
86	ハホタチ(BM2)	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8	12.8
87	ニンジンマヒキナ	-	-	-	-	-	-
88	ダイコンマヒキナ	-	-	-	-	-	-
89	カブマヒキナ	-	-	-	-	-	-
90	カンショ苗	-	-	-	-	-	-

第3表 クロッピングシステム部門1994年度作物別耕種概要(C)ー1

番号	作 目	播 種 日	定 植 日	収 穫 始 期	収 穫 終 期
		月・日	月・日	月・日	月・日
1	カンショ(K14)	0318	0517	1001	1126
2	カンショ(VS6)	0324	0614	1129	1202
3	大豆(TM1)	0622	*	1202	1202
4	大豆(TG2)	0705	*	1206	1206
5	大豆(A01)	0627		1203	1203
6	エタマメ(SP1)	0311	*	0606	0610
7	エタマメ(HS1)	0418	*	0705	0713
8	エタマメ(HS2)	0502	*	0714	0722
9	エタマメ(HS3)	0513	*	0725	0801
10	エタマメ(HK1)	0523	*	0802	0816
11	エタマメ(HK2)	0531	*	0816	0826
12	エタマメ(HK3)	0610	*	0829	0902
13	エタマメ(TS1)	0622	*	0919	1007
14	エタマメ(TG1)	0713	*	1011	1014
15	カホチヤ(HY)	0330	*	0628	0805
16	カホチヤ(RK)	0330	*	0628	0805
17	スイートコーン(KT1)	0408	*	0627	0630
18	スイートコーン(KT2)	0406	*	0706	0711
19	スイートコーン(KT3)	0418	*	0710	0715
20	スイートコーン(AS1)	0506	*	0718	0721
21	スイートコーン(AS2)	0524	*	0721	0801
22	スイートコーン(AS3)	0506	0526	0801	0805
23	スイートコーン(AS4)	0530	*	0810	0816
24	スイートコーン(AS5)	0608	*	0817	0822
25	春カンラン(OK1)	0309	0407	6021	0707
26	春カンラン(OK2)	0315	0412	0708	0721
27	カンラン(SH)	0725	0906	1104	1130
28	カンラン(NP)	0801	0914	1114	1130
29	カンラン(US)	0809	0916	1201	0130
30	カリフラワー	0808	0914	1105	1125
31	ブロッコリ-(BR1)	0725	0906	1102	0125
32	ブロッコリ-(BR2)	0808	0914	11016	0125
33	夏ネギ(1)	*	0206	0404	0616
34	夏ネギ(2)	1029	*	----	0616
35	夏ネギ(3)	0428	*	0727	0801
36	ネギ(4)	0428	0823	1108	0213
37	夏ホウレンソウ(1)	0401	*	0510	0519
38	夏ホウレンソウ(2)	0411	*	0519	0525
39	夏ホウレンソウ(3)	0418	*	0525	0530
40	夏ホウレンソウ(4)	0419	*	0530	0609
41	夏ホウレンソウ(5)	0513	*	0608	0614
42	夏ホウレンソウ(6)	0520	*	0613	0624
43	ホウレンソウ(PL1)	0908	*	1017	1028
44	ホウレンソウ(PL2)	0909	*	1031	1115
45	ホウレンソウ(LD1)	0927	*	1114	1202
46	ホウレンソウ(LD2)	0928	*	1201	1227
47	ホウレンソウ(LD3)	1006	*	0105	0111
48	ホウレンソウ(PL3)	1014	*	0112	0118
49	ホウレンソウ(LD4)	1021	*	0126	0202

第3表 クロッピングシステム部門1994年度作物別耕種概要(C)-2

番号	作 目	播 種 日	定 植 日	収 穫 始 期	収 穫 終 期
		月・日	月・日	月・日	月・日
50	サトイ	0403	*	1026	1222
51	シュンギク(1)	1017	*	1206	----
52	シュンギク(2)	1021	*	----	0118
53	ミズナ(1)	1004	*	1109	0201
54	ミズナ(2)	1017	*	----	0201
55	コアブ(1)	0401	*	0510	0613
56	コアブ(2)	0411	*	----	0613
57	カブ(HK1)	0922	*	1025	1110
58	カブ(HK2)	1003	*	1111	----
59	カブ(HK3)	0916	*	----	0127
60	夏タニコ(SG1)	0404	*	0523	0602
61	夏タニコ(OH1)	0405	*	0601	0607
62	夏タニコ(OH2)	0413	*	0606	0623
63	夏タニコ(OH3)	0425	*	0620	0707
64	タニコ(TS1)	0907	*	1101	1129
65	タニコ(TS2)	0919	*	1129	1222
66	タニコ(TS3)	0926	*	1220	0111
67	タニコ(TS4)	1004	*	0110	0131
68	夏ニンジン(AS1)	0324	*	0606	0615
69	夏ニンジン(AS2)	0325	*	0613	0621
70	夏ニンジン(AS3)	0331	*	0617	0630
71	夏ニンジン(AS4)	0413		0628	0712
72	夏ニンジン(AS5)	0427		0708	0725
73	ニンジン(YM1)	0830	*	1108	1118
74	ニンジン(SK)	0905	*	1118	1212
75	ニンジン(HB)	0913	*	1220	1227
76	ニンジン(YM2)	0913	*	1208	1227
77	ハレイショ(DS)	0304	*	0607	0616
78	ハレイショ(MQ)	0302	*	0616	0624
79	ハレイショ(SY)	0302	*	0624	0624
80	ハレイショ(DZ)	0302	*	0630	0630
81	秋ハレイショ	0913	*	1201	1201
82	ハブタン(SK)	0811	0921	1124	1227
83	ハブタン(BK)	0811	0921	1124	1227
84	ハブタン(SM)	0811	0921	1124	1227
85	ハブタン(BM1)	0811	0921	1124	1227
86	ハブタン(BM2)	0811	0921	1124	1227
87	ニンジンマビキナ	-	-	-	-
88	タニコマビキナ	-	-	-	-
89	カブマビキナ	-	-	-	-
90	カンショ苗	-	-	-	-

カブは近年生産が増加してきている作目である。マルチ栽培によって高品質化したが、これは変形やよごれが減少したためである。また収穫時期をはやめて、小さい段階で販売したことも好結果の原因である。

夏ダイコンも数年前から導入した作型で、これまでの最高の生産となった。品種・作期など技術的に一応の確立をみた。

秋冬のダイコンも史上最高の平成3年につぐ生産となった。ビニールマルチ栽培も順調であった。

夏ニンジンも前年に引き続き好結果を得た。間引き菜の販売収入も大きい。

秋冬ニンジンは導入2年目の作目であるが、販売所で好評な基幹作物のひとつに成長した。

春パレイショは収量・生産量ともまずまずであっ

たが、6月の高温のためか一部腐敗が生じたため販売単価を低く設定せざるをえず、前年をこえる収入とはならなかった。

秋パレイショも萌芽が不良で、十分な生産とはならなかった。機械による覆土の厚さに問題があるとおもわれるが、販売単価が高く設定できる作目だけに緊急の改善を要する。

ハボタンは丸葉の品種も導入して販売拡大を意図したが、販売成績不良で一部圃場還元した。生育が異常に進行し、販売に苦慮した。

当部門における販売収入は5,902千円で、前年を16%うわまわり、史上最高を記録した平成3年度につぐ結果となった。スイートコーンやパレイショにみられたような「低品質・低価格」を克服することと、一層の省力化が課題である。

汎用耕地部門

岡山・八浜水田部

平成4年度以降岡山水田と八浜農場は汎用耕地部門として一体的に水稻栽培を行ってきた。これに伴い、本年度も麦裏作、転作作物の栽培は行っていない。

平成6年は記録的な高温、少雨となり、平均気温は栽培期間を通じて平年を上回り、特に7月から8月上旬にかけて平年より約3℃近く高い日が続いた。日照時間も6月下旬から9月中旬まで平年よりかなり多かった。降水量は5月から9月中旬まで平年を大きく下回り、各地で給水制限が実施された。しかし、7月7日には岡山市内で局地的な豪雨（日最大1時間降水量 岡山73.5mm）となり、各所で被害がでた。岡山農場水田でも取水口と排水口から水が噴き出し、水田全体が数時間にわたり冠水状態になった。台風の被害はほとんどなかった。

岡山県では、少雨により一部で干害の発生がみられたものの、多照により水稻の生育は良好で、9月下旬に近畿地方を縦断した台風第26号による倒伏や穂発芽等の被害はなかった。分けつは旺盛で、有効茎歩合もやや高く、平年よりやや多い穂数・粒数が確保され、出穂期は平年とほぼ同様であった。出穂期以降も高温・多照で気温日較差も大きく経過したことから、稔実は良好で、粒の肥大・充実も順調であった。

作柄は全国平均544kg/10a（作況指数109良）と過去最高を記録した。岡山県は作付面積48,200ha、収穫量256,400t、平均収量532kg/10a（作況指数112良）で、これも過去最高となった。

平成6年度に栽培した水稻品種はアケボノに統一し、岡山1、2号水田と八浜2号水田と5号水田の半分は田植え機を用いて成苗（葉齢5～5.5）を移植し、八浜1、3、4号水田と5号水田の残り半分は乾田直播栽培とした。また、八浜農場では開設時から断続実施している生わらの土壤還元試験とともに、昭和63年度より行っている緩効性窒素肥料の肥効試験を行った。岡山3号水田では、修士・卒業論文作成のための試験が行われ、多くの研究成果が報告された。

本農場の水稻収量は岡山水田と八浜水田を平均して576kg/10aと、いずれも岡山県の平均レベルを大きく上回り、総出荷量は1748袋（30kg）とこれまでの最高を記録した平成4年（1537袋）に比べ211袋（13.7%）増加した。

平成5年度末に汎用温室3棟が竣工し、内1棟（433㎡）について水稻の早期栽培を行った。4月28日にアケボノを播種し、温室内でポット育苗を行い、6月2日に実習で手植え移植した。その後慣行に従って栽培を行ったが、気温の上昇が著しく、常時天窓・側窓を解放した。その結果、生育は順調で生育初期にイモチ病、8月下旬にコブノメイガの発生がみられたが、防除を行った結果大きな被害はなく、8月30日に出穂を迎えた。草丈はやや徒長気味に推移したものの、倒伏もなく登熟も良好で、収量は580g/㎡となった。入念に代かきを行ったため、著しい漏水もみられず、今後連作障害を回避する目的での水稻作の導入が期待された。

第1表 栽培面積

作 目	栽培様式	品 種	栽培圃場 及び 面積 (a)	合 計(a)
岡 山 水 田				
水稻	移 植	アケボノ	1号(35) 2号(65) 3号(5,研究室)	105
	移 植	アケボノ	汎用温室(4.3)	4
	直 播	アケボノ	3号(10,研究室)	10
	移 植	日本晴	3号(10,研究室)	10
	試験研究用		3号(10,研究室・未収穫)	—
八 浜 水 田				
水稻	移 植	アケボノ	2号(158) 5号(70) 6号(9)	237
	直 播	アケボノ	1号(281) 3号(69) 4号(81) 5号(64) 6号(45)	540

第2表 栽培の概要

作 目	栽培様式	品 種	播種・移植期	播種量 kg/10a	施 肥 量 (kg/10a) 種類	N P ₂ O ₅ K ₂ O			収穫期
岡山水田									
水 稻	移 植	アケボノ	5/10・6/15	2.5	L P	7.0	7.0	7.0	10/20
	移 植	アケボノ	5/10・6/15	2.5	化成	9.8	13.6	9.3	10/21
八浜水田									
水 稻	移 植	アケボノ	5/10・6/22	2.5	L P	8.4	8.4	8.4	10/24
	直 播	アケボノ	5/16～5/20	6.0	L P	9.8	9.8	9.8	11/2

第3表 水稻防除作業内容

	薬 剤 名	圃 場 名	使用量(/10a)	作 業 月/日
八 浜 水 田				
除草剤	サター乳剤	1,3,4,5,6号田	990ml	5/24
	スタム乳剤	〃	535ml	5/24
	スタム乳剤	〃	717ml	6/4
	スタム乳剤	〃	547ml	6/17
殺虫・	シンザン粒剤	1,2,3,4,5,6号田	3.4kg	7/1
	ダイスト粒剤	1,3,4,5,6号田	6.0kg	5/27
殺菌剤	レタソアフ°ロート モンカト粉剤	1,2,3,4,5,6号田	3.4kg	8/5
	ヒノバイトレホ°ン粉剤	1,2,3,4,5,6号田	3.0kg	9/16
岡 山 水 田				
除草剤	シンザン粒剤	1,2号田	3.0kg	6/21
殺虫・	ルーバ°ンM粒剤	〃	3.0kg	7/15
殺菌剤	アフ°ロートアルフェート粒剤	〃	3.4kg	8/4
	ラフ°サイト°オトレホ°ン粉剤	〃	3.0kg	9/10

装置化生産部門

果樹部

いずれの果樹とも樹勢の衰弱に伴う生産量の低下が著しい本園において、改植を始めとした園全体の抜本的な改革に着手してから4年が経過した。本年度も、4号園ではブドウの収穫後に一部を伐採し、その跡地にモモを定植した。本年度は記録的な高温乾燥気候であったが、灌水設備の完備した本園では夏期の日照量の豊富さが幸いして多くの樹種において果実の生産量および品質が優れ、また平成3年度末までにブドウへの改植をほぼ完了した3号園では、「藤稔」を始めとした多くのブドウ品種で収穫が可能な樹齢に達した。このため、本年度の果実の総生産量および総販売額は、昨年度に比べて各々約25%および約40%増加した（第1表）。各園の概況は以下の通りである。

1号園：モモは、生産量では昨年度とほぼ同様であったが、販売額では約3割多かった。カキは生産量、販売額ともに昨年度よりも著しく増加した。特に渋ガキの「平核無」と「愛宕」の生産量が多く、「愛宕」では生果としてだけでは処分しきれなかったため、かなりの量を干しガキとして販売した。

2号園：昨年度までに、本園の約半分の面積を占めていたモモ園をカキ園に改植した園地においては、初年度に定植した「富有」で少しずつ生産が可能な状態に達し、またその品質が1号園に栽植されている「富有」に比べて著しく良好であった。リングの生産量および販売額は、「ふじ」では昨年度とほぼ同様であったが、「つがる」では生産量が約6割、販売額で7割多かった。

3号園：改植により「藤稔」、「ピオーネ」および「巨峰」の4倍体品種と「マスカット・ベリーA」、「ヒロハンプルグ」、「アーリースチューベン」および「ネオ・マスカット」の計7品種のブドウが栽培されている本園においては、いずれの品種とも結果樹齢に達し、好天に恵まれたこともあって生産量、販売額ともに昨年度よりも著しく増加した。特に、「藤稔」の生産量は昨年度の

約3倍で、しかも品質的にも優れたため消費者に極めて好評であった。そのほかの4倍体品種および「マスカット・ベリーA」も、実質的には初結果ながら、かなりの生産量を上げることができた。

4号園：ブドウの「巨峰」と「マスカット・ベリーA」では、その栽培面積が昨年よりも少ないにも関わらずかなりの生産量を上げることができたが、「ヒロハンプルグ」については労力的な理由により露地ブドウ生産の比重を3号園に移したために、昨年度よりも少ない生産量であった。これら品種の果実収穫後に約80アールのブドウを伐採し、その跡地に昨年度に引き続いてモモの「あかつき」、「紅清水」、「清水白桃」および「黄金桃」を6個体ずつ定植した。これにより、当初予定していたモモへの改植は本年度をもって完了した。また、本園の残り部分についてはキウイフルーツを栽植の予定であるが、そのための個体を年度末に購入し、仮植した。

ガラス室：大温室では、「マスカット・オブ・アレキサンドリア」を8樹、および「グロー・コールマン」と「藤稔」を2樹ずつ栽培している。定植後、これらに土壤の理化学性に原因すると思われる生育障害が現れたため、本年度も果実を収穫するには至らなかった。

地中温度制御室と空調室の「マスカット・オブ・アレキサンドリア」は、樹勢の衰弱が著しいため、無加温であったにも関わらず生産量は昨年度よりも著しく少なかった。なお、地中温度制御室については年度末に全てを伐採し、ボックスによる根域制限方式で同じ「マスカット・オブ・アレキサンドリア」の栽培を始めた。昨年度末に養水分コントロール室に定植した「藤稔」の場合、生育は良好であったが、収穫には至らなかった。

見本園：ウメ、ビワおよびナッツ類のいずれとも、労力の面から栽培管理がほとんどできない状態であったことや灌水設備がないために過度の乾

燥に遭遇したことなどにより、これらの生産量は
昨年度よりも著しく少なかった。

第1表 平成6年度における果樹種類別・品種別の生産量と販売額

種 類	品 種	生産量(kg)	販売額(円)
モモ		1,262.0	648,000
ブドウ	アーリースチューベン	178.0	71,200
	藤稔	767.6	672,600
	巨峰	653.0	329,700
	ピオーネ	844.0	676,550
	紅富士	56.0	41,200
	ネオ・マスカット	20.0	8,000
	マスカット・ベリーA	1,733.0	852,800
	ヒロハンプルグ	277.0	129,200
	マスカット・オブ・アレキサンダー	111.0	131,600
リンゴ	つがる	1,162.0	326,400
	千秋	255.0	73,700
	ふじ	693.0	277,200
カキ	西村早生	91.0	19,700
	松本早生富有	441.0	110,250
	富有	167.0	48,350
	西条	68.0	20,400
	平核無	751.0	178,000
	愛宕(生果)	623.0	124,600
	愛宕(乾果)	271.5	114,000
ウメ		267.0	116,650
ビワ		24.0	9,600
ナッツ類(クルミ, ペカン)		4.5	2,700
ユズ		0	0
合 計		10,719.6	4,982,400

そ菜・花き部

今年の夏は異例の猛暑で、農学部的气象観測結果によると7月の日最高気温の平均値は34.9℃、8月のそれは35.3℃を示しており、また8月に10mm以上の雨が降ったのはわずか1日に過ぎなかった。このような異常気象の下で露地野菜などは全国的に大きな被害を受けたが、当部においては幸い灌水施設が整備されていたことや適切な管理によって被害を僅少に食い止めることができた。

第1表に平成6年度における耕種と生産の概要を示した。

異常気象によって最も減収となったのは夏ギクで、切花本数には大差が無かったものの高温による開花の遅れで需要の集中する8月のお盆に出荷が間に合わず、収入面ではマイナスとなった。

トマト、ナス、キュウリなど果菜類の販売額の全体に占める比率は42%で昨年より7%増加した。これは好天によってトマトの収量が昨年より77%、ナスが79%増えたことによるもので、この面では今年の気候はむしろプラス要因として働いた。

タマネギやハクサイを主とする葉菜類の販売比率は全体の27%で昨年とほぼ同じ横ばい状態であった。葉菜のうち早播きのハクサイは高温障害を受けたが、9月に入って播種したものは所期の収量

を上げることができた。

花きについては、本年度から供用の始まった汎用温室のB棟440㎡に新たに電照ギクとカーネーションを等分に作付けた。その代わりこれまで1号ハウスで続けてきた電照ギクの栽培をとり止め、また切花労力の節減を考えてこれまでカーネーションを栽培してきたガラス温室の作付けをアルストロメリアに切り替えた。このような移行措置を行ったために花きの販売額は昨年度より下がり、全体に占める比率も31%となったが、アルストロメリアが盛花期に達する2、3年後には収益も回復するものと期待している。

果菜や夏ギクの収穫が集中する夏の繁忙期の労力不足は学生アルバイトで補ったが、やはりキクの一部は切花が出来ないまま残った。

また、週休2日制の下において綿密な管理を必要とする果菜類の育苗を行うことは極めて難しい状態にある。最近の企業の園芸経営においては分業化が進んで、農家も専門業者から苗を購入するケースが多くなったが、当部においても運営を効率化するためこのような形に踏みきらざるを得ないのではないかと考えている。

第1表 平成6年度そ菜・花き耕種、運営概要

作 目	品 種	圃 場	面 積	収 量	販 売 額
トマト	サターン	南1号	5.0a	1723kg	417,550円
ナス	長者	南1号	6.7	3267	621,640
キュウリ	北進・他	南1号	3.3	1448	297,790
シロウリ	阿波緑	南2号	1.6	129	34,600
ピーマン		南1号	0.5	594	118,700
オクラ		南1号	0.5	125	50,000
ハクサイ	耐病60日	南2号	10.0	3051	240,750
ラディッシュ		南2号	2.0	58	23,200
中国野菜		南2号	3.9	1695	213,000
タマネギ	OP黄	南2号	8.9	4388	464,350
タマネギ苗		南2号	2.2	15500本	46,500
キク	雪小路・他	南2号	5.7	8034	402,700
カーネーション	フランシスコ・他	温 室	220㎡	4816	242,900
アルストロメリア	セレナ・他	温 室	181	2809	150,650
スターチス		ハウス	60	138	13,800
カスミソウ		ハウス	60	107	10,700
キク		温 室	220	3210	321,000

本島農場

夏秋季の気象が例年に比べて著しく高温乾燥であったため、甘夏柑を除いては、最も主要なカンキツである温州ミカンを始めとして昨年度よりも生産量の少ないものが多く、従って本年度の総生産量は昨年度よりも僅かに少なかった。しかし、カンキツ類全般にその単価が昨年度よりもかなり高く推移したため、本年度の総販売額は昨年度よりも約2割多かった（第1表）。

第1表 平成6年度におけるカンキツの種類別生産量と販売額

種 類	生産量(kg)	販売額(円)
温州ミカン	3,196.0	965,200
ポンカン	58.0	23,200
イヨカン	269.0	107,600
甘夏	1,717.5	400,950
ハッサク	43.0	12,900
雑柑類	618.0	174,100
レモン	142.5	41,750
スダチ	17.6	4,400
キンカン	0	0
ダイダイ	19.5	3,900
セミノール	146.0	43,800
合 計	6,227.1	1,777,800

山地畜産部門

津高牧場

平成6年度の飼育牛移動状況は第1表に示した。子牛生産頭数は雌13頭、雄18頭の計31頭であった。本年の販売総頭数は43頭で、このうち子牛が29頭、肥育牛が14頭であった。雌子牛R-509号は、発育不良のため繁殖用として適さず、また、市場に出荷しても価格面で期待できず、教育的観点から畜産系学生の解剖学実験に供与した(H06.05.16)。また、雌子牛R-535号は平成6年12月12日朝、原因不明で急死した。家畜共済連の獣医師による検査、診断では原因は明らかでないが悪性の疾病ではなく急性肺炎との診断結果であった。

繁殖成績として、平成6年1月1日から12月31日までの間の人工授精可能頭数は48頭（若雌牛で発情しても人工授精をしなかったものは除いた）であり、このうち実際に受胎した頭数は43頭であった。第2表は全授精に対する受胎率、同一雌牛に対する授精回数を考慮し、初回発情授精及び1-3回発情授精の受胎率を示した。全授精に対する受胎率は53.9%であり、このうち初回発情授精による受胎率は41.2%、1-3回発情授精によるそれは73.1%となって、まずまずの成績であった。

平成6年度から新しく優良繁殖雌から授精卵を採取、凍結保存を行い、受精卵移植による系統保存、系統造成を開始した。6頭の受胎牛が得られた。

子牛販売成績は第4表に示した。去勢牛では平均23.1万円、雌では平均21.6万円となって、雌子牛価格が昨年より高値であった。出荷齢は前年に比較して、去勢で28日、雌で5日早くなっており、日齢体重によって発育を年次比較すると、去勢牛は前年に比較してやや低く、雌は高い値であった。今年も、全国的に子牛市場の価格は低迷の傾向を示し、牛肉輸入自由化の影響は依然として継続していた。

枝肉販売売上成績は第4表に示した。去勢肥育牛は昨年に比べやや早めに肥育を完了し出荷した。枝肉格付はA-3、B-3それぞれ1頭ずつ、A-2、B-2それぞれ3頭ずつで全体として中程度であった。平均枝肉単価は1,006円/kgとなり昨年を下まわる価格であった。短期肥育の雌牛の枝肉価格は、格付も低く500円台で、昨年を大きく下まわった。

第1表 平成6年度飼育牛移動状況

		雌				雄			合計
		子牛	育成牛	繁殖牛	肥育牛	子牛	育成牛	肥育牛	
06.04.01現在		14	5	44	3	14	8	8	96
期間移動	増 生産	8	-	-	-	11	-	-	19
	振替	-	-	4	3	-	-	-	7
	振替	-	4	3	-	-	-	-	7
	減 へい死	1	-	-	-	-	-	-	1
	売却	6	-	-	3	11	-	3	23
06.10.01現在		15	1	45	3	14	8	5	91
期間移動	増 生産	5	-	-	-	7	-	-	12
	振替	-	3	1	-	-	4	8	16
	振替	3	1	-	-	4	8	-	16
	減 へい死	1	-	-	-	-	-	-	1
	売却	5	-	-	-	7	-	5	17
07.03.31現在		11	3	46	3	10	4	8	85

第2表 平成6年度の人工受精成績

	初回授精	1-3回授精	全授精
授精延頭数	51	26	76
受胎頭数	21	19	41
受胎率(%)	41.2	73.1	53.9

第3表 平成6年度子牛販売成績

販 売 年月日	耳標 番号	性 別	生後 日 齢 (日)	体 重 (kg)	日 齢 体 重 (kg/日)	せり落 価 格 (千円)	kg当り 単価 (円/kg)	母牛 番 号	父牛 番 号
06.04. 6	R491	雌	324	276	0.852	187	678	Y143	12東清国
	R496	去	294	278	0.946	196	705	Y118	平田
	R498	去	273	290	1.062	206	710	Y 93	平田
	R500	去	264	288	1.098	324	1,125	Y130	平田
06.05.27	R495	雌	341	280	0.821	230	821	Y137	12西丸
	R497	雌	317	247	0.779	201	814	Y167	12東国
	R502	去	264	261	0.989	230	881	Y164	仙守3
	R503	去	265	285	1.075	214	751	Y159	10花横
	R505	去	244	278	1.139	232	835	Y 87	平田
05.07.07	R504	雌	303	258	0.851	149	578	Y173	10花横
	R506	去	263	250	0.951	205	820	Y166	平田
	R507	去	245	252	1.029	216	857	Y174	平田
05.09.09	R508	雌	308	267	0.867	248	929	Y115	12東清国
	R510	雌	283	260	0.909	284	1,092	Y147	平田
	R511	去	250	273	1.092	224	821	Y139	仙守3
	R513	去	239	264	1.105	173	655	Y152	12西丸
	R514	去	238	263	1.105	261	992	Y112	平田
05.10.27	R512	雌	293	276	0.942	231	837	Y 80	平田
	R515	去	284	300	1.056	271	954	Y175	12西丸
	R516	雌	278	249	0.896	200	803	Y100	赤木1
	R519	去	248	280	1.129	250	893	Y148	赤木1
05.12.05	R517	雌	313	248	0.792	174	702	Y160	10花横
	R522	去	269	278	1.033	238	856	Y 91	10花横
	R524	去	243	234	0.963	194	829	Y171	赤木1
	R525	去	235	268	1.140	271	1,011	Y122	10花横
07.01.25	R521	雌	330	262	0.794	237	905	Y168	12西丸
	R523	雌	291	290	0.997	238	821	Y178	12西丸
	R526	去	273	263	0.963	246	935	Y144	12西丸
	R528	去	256	290	1.133	223	769	Y172	12西丸
平均値		去勢	18	258	272	1.056	219	856	
		雌	11	307	265	0.865	216	816	

第4表 平成6年度枝肉販売成績

と 殺 年月日	耳 標 番号	品 種 性別	水引枝 肉重量 (kg)	枝肉 規格 (円/kg)	枝肉 単価 (円/kg)	売上 金額 (千円)
06.04.06	Y 71	黒雌	331.1	C-2	400	132.440
	Y114	黒雌	375.1	B-2	450	168.795
	Y158	黒雌	342.9	A-2	550	188.595
06.09.01	W 91	黒去	443.9	B-2	750	332.925
	W 95	黒去	409.3	A-3	1,200	491.160
	W 98	黒去	425.1	A-2	900	382.590
06.10.04	Y 87	黒雌	328.7	B-1	400	131.480
	Y156	黒雌	392.0	B-2	600	235.200
	Y170	黒雌	350.0	B-2	700	245.000
06.10.06	W 96	黒去	392.0	A-2	1,000	392.000
	W 97	黒去	361.8	B-2	900	321.620
	W 99	黒去	439.1	B-2	1,000	439.100
	W100	黒去	387.6	A-2	1,000	397.600
	W101	黒去	372.2	B-3	1,300	483.860

汎用耕地実験実習施設「汎用温室」の新営

農学部附属農場の汎用耕地実験実習施設として汎用温室が平成6年3月末に竣工をみた。

趣 旨

汎用耕地とは水田と畑地ふたつの機能をあわせ持つ、高度に整備された生産性の高い耕地をいうが、人口の増加にみあう食糧の確保および環境の保全と食糧そのものの安全性は世界的な緊急課題である。このためには、農耕地を高度に利活用することが不可欠である。本施設は汎用耕地における①輪作体系 ②低投入持続型農業 ③生態環境を総合的に教育研究するための施設である。

実際の作付としては3棟間のローテーションを組み、エダマメ～スイートコーン～シュンギク、カーネーション～電照菊、イネ～カンランなどが考えられる。温室における稲作は連作障害の回避と集積塩類の洗脱による耕地の保全を意図したものである。

当面は有機物の投入など土作りに重点を置きながら合理的な農場運営に活用する予定である。

工事概要

従来の1号水田に盛り土し、さらに水田表土を盛り土した上に建築された。構造としてはガラス室(S-1)、鉄骨溶融亜鉛メッキ、側窓アルミ製引き違い窓、ステンレス防虫網などで、建築面積は443.625㎡(13.000m×34.125m)が3棟である。

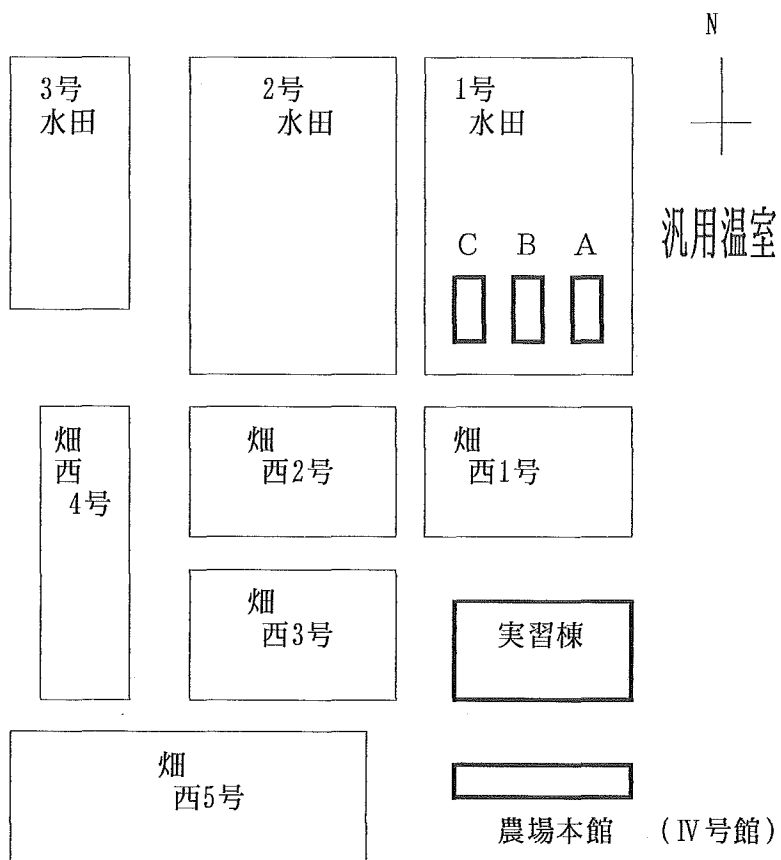
設備としては、温室用暖房機(熱出力75,000kcal, A重油, 多方向吹き出し形)、油タンク(1,900リットル)、室内保温遮光カーテン(ビニールおよび寒冷紗)、自動開閉装置(温度および雨風センサー付、天窓・側窓・室内保温遮光カーテン用)などがある。総工費は約7千万円である。

1. 汎用温室

- | | |
|-----------|--|
| (1) 構 造 | ガラス室 S-1 鉄骨溶融亜鉛メッキ
側窓アルミ製引き違い窓 ステンレス防虫網 |
| (2) 建築面積 | 443.625㎡(13.000m×34.125m)×3棟 |
| (3) 土工事 | 水田表土すき取り マサ土盛り土 水田表土盛り土
暗渠(内側周辺) |
| (4) 設 計 | 岡山大学施設部 |
| (5) 工 期 | 平成5年11月5日～平成6年3月25日 |
| (6) 工事費総額 | 74,469千円 |
| (7) 工事請負者 | 建設工事 奥村建設
電気工事 林電設 |

2. 設備概要

- | | |
|----------------|---|
| (1) 温室用暖房機 | 熱出力75,000kcal
A重油 多方向吹き出し形
給・排気設備 室内ポリダクト |
| (2) 油タンク | 1,900リットル
(A重油) |
| (3) 室内保温遮光カーテン | ビニールおよび寒冷紗 |
| (4) 自動開閉装置 | 温度および雨風センサー付
天窓・側窓 室内保温遮光カーテン用 |



第1図 汎用温室位置（岡山農場西圃場／水田）